

平成27年度

# 事業報告書

社会福祉法人 やまなみ会

ウィルアークス

就労継続支援 A 型事業

就労移行支援事業

# 目 次

- 1. はじめに . . . . . 1
- 2. 利用者状況について . . . . . 1～2
- 3. 福祉事業報告 . . . . . 2～3
- 4. 就労支援事業報告 . . . . . 3～5
- 5. 防災関連 . . . . . 5
- 6. 職員処遇 . . . . . 6
- 7. その他 . . . . . 6
  
- 巻末 添付資料①

## 平成27年度ウィルアークス事業報告書

### 1. はじめに

年度途中での管理者交代があり、施設運営に関して混乱を生じ、社員方々及び関係者には多大なるご迷惑をお掛けすることとなった。職員一同今後このようなことが無いよう職員各人が持つ役割と責任感を全うするべく、職員会議や事業所内のミーティングを行い、仕事をさせられているのではなく、自らが考え動く仕事を出来るようになるよう指導を行ってきた。

### 2. 利用者状況について

利用定員 就労継続支援 A 型 20名

就労移行 6名

利用状況（平成28年3月末日）

現員 22名（男性：19 女性：3名） 年間月平均利用者数 16.21名

平成27年度利用者平均賃金	月額平均66,388円
---------------	-------------

利用者の障がい状況

身体障がい		知的障がい		精神障がい	
男性	女性	男性	女性	男性	女性
7 (3)	1 (0)	9名 (3)	1 (0)	1	1

( ) は重複している者

新規利用者 4名（男性：4名 女性：0名）

退職者 2名（男性：2名 女性：0名）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
採用	男								1			3	
	女												
退職	男			1									1
	女												

本年度の新規利用者総数は、4名の受入であった。阿蘇圏域の支援センターよりの紹介の3名とハローワーク求人を見ての応募が1名あった。新規利用者は、すべて阿蘇郡市からの利用であった。内1名は、ウィルアークスの再利用者であった。

又、退職者は、2名であり退職理由は、以下の通りである。

- ・就職先が見つかった。
- ・病気の為就労が継続不可能となった。

平成28年3月現在で22名の利用者数である。

就労移行事業を始めたが、今現在、利用にいたらなかった原因の一つとして、就労移行事業の知名度不足が考えられる。

事業所の利用率見ていくと年間平均約65%の利用に留まっている。利用者の獲得に向けた取り組み不足が浮き彫りとなった。

利用実績は、巻末の添付資料①を参照のこと

### 3. 福祉事業報告

病気が原因の長期にわたる欠勤者数名あった為社員の方々へ健康管理を気を配り、定期健康診断後に再検査が必要な社員の方には、病院への送迎や個々の相談にのり、健康維持に努めた。

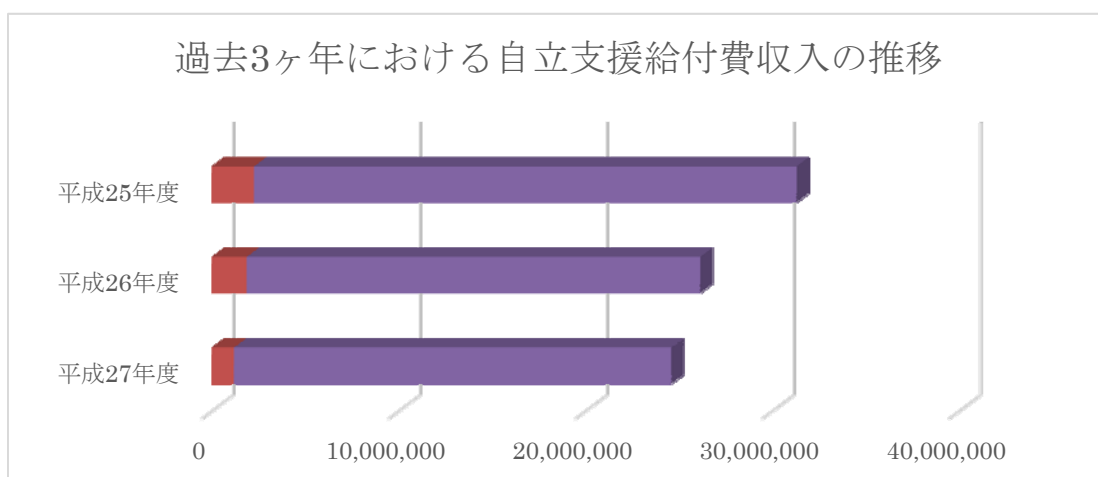
施設収入も3ヶ年の推移で、比較してみると、サービス費の各加算の減額により、平成25年から比べると約650万円程下がっている。

今後、各加算の減額や廃止も予測されるため今以上に収益を上げることが厳しくなると予想される。

利用者数の減少や病気などの事情により長期に渡り利用が出来ず、支援費増に繋がらなかった。

ウィルアークス 3ヶ年収入推移 【平成25年度～平成27年度】

	介護給付費	訓練等給付費	自立支援給付費合計
平成27年度	1,199,500	23,406,966	24,606,466
平成26年度	1,883,280	24,250,484	26,133,764
平成25年度	2,274,300	29,020,084	31,294,384



#### 4. 就労支援事業報告

経営の立て直しを最優先に考え業務に当たるが、思うように収益も伸びず、ほぼ横ばい状態が続いており、厳しい状況である。新規で大口の取引先はなく、既存の取引先にすぎるばかりで、売上を上げることが難しい。又、既存の取引先もコストカット等を強いられているためなかなか大きな売上を上げることが出来なく、業務委託先である当施設にもしわ寄せがきている。そうした中でも、就労事業としての福祉の役割を担うことの重要性もあり、安易な人件費カットや雇止めなどもできない状態の中での施設運営は、厳しい状況である。

出来る限りの無駄をカットし、少しでも売り上げに繋げてきた。就労で使用する備品・材料等必要なだけの購入を行い、無駄なく使いきることに努めた。

又、最低給与の見直しが、行われ、694円の最低賃金の保証を確保するため、各業務の依頼先へ赴き、社員の方々の経済的安定を図るための話し合いを進めていった。話合は、難しく難航するところもあったが、状況を理解して頂き、障害者の方々の就労への取り組みを解って頂いた。

こうした危機的状況下で、社員の方のニーズをとらえ出来る限り本人に合った作業支援も重要であるが、作業量の減産もあり、満足行く就労支援に結びついていなかった。

社員の方々の職業適性も考慮して、いつもの仕事だけでなく違う仕事へのチャレンジを試みた。作業配置のレイアウト変更や作業効率を上げるための工夫を行い、社員の方々の生産性の向上に努め、作業時間の効率性の追求を行った。

## 各事業報告

### ① プラスチック粉砕事業

現在1社の受注取引先であり、前年度減少傾向にあったハイブリッド関連の受注が平成28年1月より受注がなくなっている。ユポ関連の受注数は年度末に上がっているものの売上の推移はやや下がっている。平成28年度は、新たな受注拡大を行う必要がある。

### ② 製函事業

1社の取引先であり、取引先企業の生産数に受注が左右される。特に季節に左右される事業であり、月ごとの受注数の増減が大きくなっており、利用者の賃金の低下に繋がっている。新たなフルーツキャップ加工も取り入れたが、単価があわない為、取引終了している。

### ③ 清掃事業

公共施設・一般企業、法人・個人住宅等のワックス清掃作業及び近隣の牧場や畜舎内などの清掃作業おこなった。ワックス清掃の受注量は前年度同様多い数ではなかったが、畜舎内清掃作業は、安定した受注があり、利用者賃金も安定する事ができている。

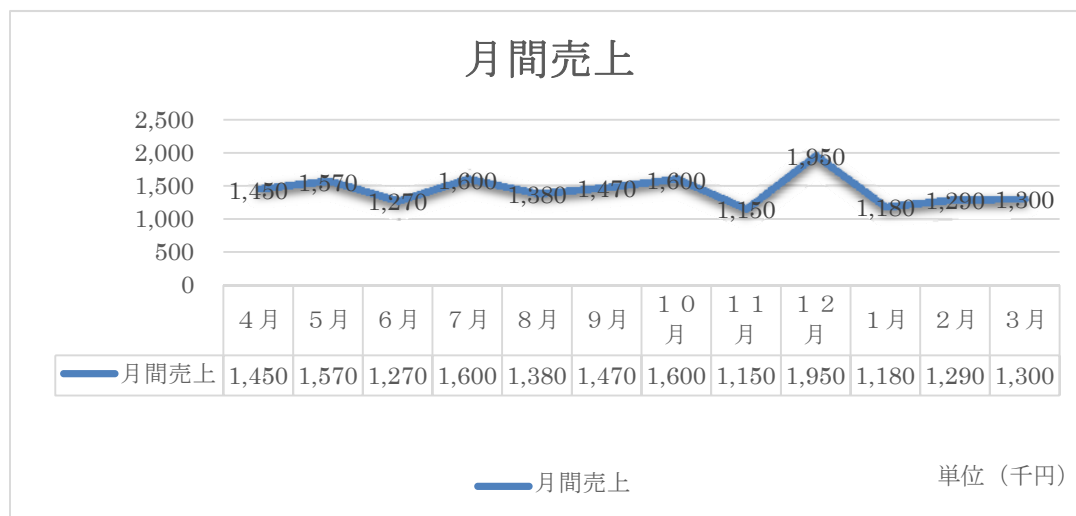
### ④ 印刷事業

法人内各事業所、一般企業、産山公共施設等への印刷営業を行い。産山役場からの受注数は前年度後半期に比べ多くなっているが、法人内からの受注数は落ちている。法人内への営業を行い、出来るだけ多くの受注をもらい利用者賃金の安定に取り組んで行きたい。また生産効率の向上、コスト削減にも取り組んでいる。

### ⑤ 農業加工事業

近隣農家へ行き農業品の加工を行った。今年度は、季節による作業量の増減は少なく安定した。受注数を維持する事ができていたが、悪天候による作業中止等あり、売上は少し減少傾向にある。地域特性上さらなる受注の拡大を行った。

## ウィルアークス就労収益



年間を通してほぼ横ばいの売上である。総売上額は、約1,700万円である。12月の売上は、印刷事業での発注量の増加と年末に未収金の入金などがあつた為である。

## 5. 防災関連

緊急時における防災対策の意識向上に努めた。

- ・ 集会等での意識向上
- ・ 防災マップの策定
- ・ 避難通路の確保
- ・ 消火設備の点検
- ・ 機械等の定期点検及び使用前点検の義務
- ・ 休憩室等のたばこの後始末についての指導・支援
- ・ 退勤時の点検
- ・ 防災訓練を2回実施

## 6. 職員処遇

施設業務に関連した専門知識の向上、習得を図る為授産施設協議会及び社会福祉協議会が主催する各種講習・研修会へ参加した。又、社会福祉に関する法令等に関する施設内職員研修も行った。

### ・主な参加研修会及び講習会

期日	参加研修及び講習会	参加人数
10月20日	社会福祉法人会計実務研修会（管理者）（メルパルク熊本）	1名
11月27日	福祉サービス苦情解決研修会（ホテルテルサ）	2名
12月1日	第1回工賃向上支援研修会（KKRホテル）	1名
12月9日	成年後見人制度利用促進研修会（KKRホテル）	1名
12月22日	熊本県サービス管理責任者研修（共通）（嘉島町民会館）	1名
2月12日	社会福祉法人労務研修会（グランメッセ）	1名
2月16日	第2回工賃向上支援研修会（KKRホテル）	1名
2月18・19日	熊本県サービス管理責任者研修（就労）（嘉島町民会館）	1名
2月25日	苦情解決第三者委員会研修会（メルパルク熊本）	2名
3月11日	就労A型事業所運営支援研修会（県庁地下大会議室）	1名

## 7. その他

### ①施設見学

市町村や相談支援センター等を通じて、施設見学の依頼があった。

又、支援の向上を目的とした他施設からの施設見学や支援学校の教職員研修で当施設見学をされ、就労事業活動を学ばれた。

### ②職場体験実習受け入

本年度は、竹田南高校をはじめとして、3件の職場体験を実施した。

印刷や粉砕作業を行い、職場マナーや働く意味を学んで頂いた。